

アプリのこと

平成29年11月25日発行
つどいの家・アプリ編集
〒982-0816
仙台市太白区山田本町 3-20
TEL 022-743-1882
FAX 022-743-1883



今回の表紙はバジル・ローズグループの山内宏司さんです♪10月7日にGLAYのライブに行ってきました♪宏司さんにとって、念願の生GLAY!!ステージとモニターを交互に確認しながら、GLAYと一緒に笑顔で歌っていました♪♪

ひとりごと～地域の協力～

今年度のバザーも大盛況のうちに終わることができました。バザーが終わった翌週にはもう「今年のバザーはいつ開催するの？」という問い合わせが数件ございました。こんなにも、地域の皆さんに楽しんでいただけていると感謝、感謝の一言です。

バザー開催中には、地域の協力があつたことを忘れてはいけません。山田町内会の会長さん・副会長さんの協力なしでは、バザーの開催はできませんでした。また、毎年協力していただいている株式会社 まるたまさんには、感謝してもしきれません。

もうひとつ驚いたのが、生出市民センターの館長さんの神対応。バザー当日は、販売会場の拡大のために、利用者の活動場所で生出市民センターを借用しておりました。その都度、何度か「アプリのこと」でも話題になっている利用者Jさんの自閉症という障がいにご理解いただき、館内の環境整備をしていただけました。私は、その話を職員から聞いたとき、鳥肌がたちました。館長さん、本当にありがとうございました。

バザーを開催するという事は、障がいのある人の理解促進や事業所の中に地域の方を招いて様子を見てもらう、またバザーの収益を財源に新たな事業を展開していくなどの目的はありますが、地域のみなさんと交流できるのが、バザーの魅力だと改めて実感しました。
(記：大累)



全国重症心身しょうがい学術集会



9月29日、30日に、仙台国際センターで第43回全国重症心身しょうがい学術集会が行われました。30日の午後より、市民公開講座としてユニバーサルファッションショーと特別講演「生きることは、聴くこと、伝えること～表現の力を信じて～」が開催され、ファッションショーにはミントグループの高橋桃子さん、特別講演には詩人として活躍する大越桂さんが登壇されました。

ファッションショーには7名の方が参加され、ファッション文化専門学校DOREMEの学生さんとチームを組んで衣装を製作し、ファッションモデルとしてステージに立ちました。桃子さんは今年新成人になるということで、テーマは「振袖」。とても素敵な衣装を着て、キラキラとした笑顔でモデルを務めていました。

特別公演は大越桂さんと、昭和大学大学院保健医療学研究科准教授の「赤鼻先生」こと副島賢和氏が、対話方式で「いのち」と「ことば」について話をしました。桂さんは筆談で会話をします。筆談をするお母さんが歌を歌うという貴重なシーンもあり、和気あいあいとした雰囲気の中で、いのち、生活、言葉について思いを伝え合い、貴重なお話を聴くことができました。

同じ事業所に通所している方がファッションモデルや講師として参加する場面を見て、誇らしい気持ちと共に良い刺激を受ける場となりました。
(記：押切)





バザーっす！



10月7日、毎年恒例となりました「～アプリのお宝市～バザーっす！」が開催されました。アプリ始まって以来の雨のバザー。「お客様は来てくれるだろうか…」と不安がつのりでしたが、沢山の方々が足を運んでくださり、開始30分前には100人を超える方々が列を作って待っていて下さいました。

「アプリへようこそ！」「いらっしゃいませ！」と雨を吹き飛ばすほど、明るく元気な挨拶でバザーがスタート。売り場に山積みだった商品があっという間になくなり、お宝の詰まった紙袋を両手いっぱい抱えた皆様から「いい買い物できた」「また来年も楽しみにしているよ」とうれい声も沢山頂き、今年度も大盛況のうちに幕を閉じました。

今年度で7回目のバザー。地域行事の一つとして根付くと共に、皆様が楽しみにして下さいているのだと感じ、アプリ一同、心から嬉しく思います。バザーを開催するにあたり、物品提供やポスター掲示などのご協力を頂きました皆様、また協力団体として一緒にバザーを盛り上げて下さいました、まるたま様、ポッケの森様、希望の星様には心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。
(記：庄子)



「雨だしそんなにお客様は来ないかも…」バザー前日にそんな会話をしていましたが、予想に反して今年も沢山の方にお越し頂きました。「つい買っちゃうのよー」と両手いっぱい商品を抱えている方、「試食のアイディアが良い！！」と声を掛けて下さる方など、多くの方とお話することができました。地域の方々とコミュニケーションを取りながらの販売は、この数力月の大変だった準備のことを忘れて、みんなが笑顔になれる楽しい時間となりました。

役員は初めての事が多く、至らない点もあったかと思えます。諸先輩方に協力を頂きながら、自分のできることを精一杯務め、無事に7回目のバザーを終えることができました。バザーっす！の主旨をご理解頂き、ご協力頂いた全ての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
(記：アプリ保護者会 会長 高橋)





まいんどパークで乗馬体験

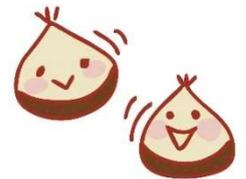


秋晴れの澄んだ青空。今年も山形県の「まいんどパーク」に乗馬に行きました(*´艸`)今年のメンバーは田中直樹さん、本間創さん、八木泰暉さん。早々に馬場に向かう直樹さん、ワクワクと足が止まらない創さん、話声が1トーン高く明るい泰暉さん。三者三様に乗馬を待ちきれない様子でした。今回、背中を借りたのは黒ぶち模様のダルメシアン。御年13歳(人間なら桑年の頃でしょうか)の落ち着いたご婦人です。まいんどパーク職員の方の説明を聞き早速乗馬。利用者のパーソナリティに合わせた個別のサポートを職員の方にして頂き、何の心配もなく皆が心から乗馬を満喫できました。乗馬の後は、お礼に持参したニンジンを手渡してプレゼント。食む音が軽快に耳に入ります。今年もありがとうございました。来年もぜひお世話になりたいと思います。

(記：岡崎)



話すっぺし 2017



10月6日に宮城野区文化センターで行われた『社会福祉法人つどいの家 権利擁護・虐待防止委員会』主催の本人向けセミナー「話すっぺし2017」に参加してきました！！

この「話すっぺし」はつどいの家各事業所から利用者が集まり、普段感じていることなど本人の思いを話し合う場です。つどいの家・アプリからは利用者数名が参加しました。会場に向かう車内から緊張している姿が見られましたが、「趣味」や「好きな活動」などについては2人とも笑顔で話していました。食事の際には、他の事業所の職員と一緒にダジャレを交えながら会話を楽しんでいる姿も見られました。短い時間でしたが多くの方と関わることができ、貴重な時間を過ごすことができました。

(記：石田)





宮城教育大学祭に参加しました♪♪



去る10月22日、第46回宮城教育大学大学祭にて「よろこびのうた」を開催しました。この催しは、法人設立25周年を記念したアプリ独自のものとして、宮城教育大学大学祭実行委員会の皆さんと、音楽科の学生の皆さんからご協力を頂き、大学祭の場でベートーベンの交響曲「第九（よろこびのうた）」を合奏しようと企画しました。

当日は台風21号が接近しており、あいにくの雨模様ではありましたが、会場の「萩朋会館」の1階に設けられた簡易ステージをお借りして、音楽科の学生の皆さんと一緒に演奏しました。開催が決まってから時間がないところでの演奏会ではありましたが、学生の皆さんが奏でるメロディーに合わせて、「ラララ♪」と歌う方、身体を伸ばして声を出す方、拍子木やマラカスといった楽器でリズムを刻む方、演奏している学生さんとタッチしながら笑顔になる方、視線や表情、身体の動きで楽しむ方など、皆さんがそれぞれの演奏スタイルで「よろこびのうた」を奏でることができました。

今回の演奏が、次の25年に向けての第一歩になりますようにと祈念しながら、今後もこのような演奏会ができればなあと思っています。宮城教育大学の皆さん、ありがとうございました。

(記：高橋)



地域防災訓練



10月28日に地域合同防災訓練に参加しました。アプリではこれまで防災訓練（火事・地震・引き渡し訓練等）は行ってきましたが、地域の防災訓練には参加していませんでした。今回は相互理解・相互交流を図ると共に、防災意識を高めるため、林田宥太さん、後藤恭子さん、寺嶋薫子さんの3名と参加しました。

訓練では、地域ごとに決められた一時避難所に集まり、地域の方と共に指定避難所の山田中学校へ。道幅が狭かったり、坂道が急だったり、道中の危険性を地域の方や利用者と確認し、新しい発見に繋がりました。また、長距離移動が難しい方は公用車で避難所へ向かいました。中学校敷地内では混雑した場所を避け、校舎裏から体育館に行くことでスムーズな避難ができました。

今回地域合同防災訓練に参加し、避難する上で注意する点や配慮する点など初めて分かることが沢山ありました。今後も地域の方と一緒に『災害に強い山田地域』を目指すと共に、山田地域におけるアプリの役割も考えていきたいです。

(記：高杉)





ゲストスピーカー



10月31日に毎年恒例となっている宮城教育大学ゲストスピーカーに参加してきました。ゲストスピーカーは「障がいのある人について知ってもらい、生活について本人と一緒に学生に伝える」ことを目的に行なっています。今年はミントグループの大越桂さんが参加し、学生を前に講師として教壇に立ちました。大学に向かう車内では少し緊張している様子でしたが、教壇に上がると、自身の体験を交えながら思いを学生の皆さんに伝えていました。桂さんは終わりに「コミュニケーションとは『歩み寄り 寄り添い 希望に近づく共同作業』」という言葉を残しました。講義後、学生が桂さんの手を握り「ありがとうございました」と挨拶をする様子を見て、桂さんの思いが少しでも伝わってほしいと思いました。今後もこのような機会を大切に、たくさんの方と関わりながらお互いに歩み寄っていけたらと感じました。

(記：坂本)



投票へ行った方へインタビュー！

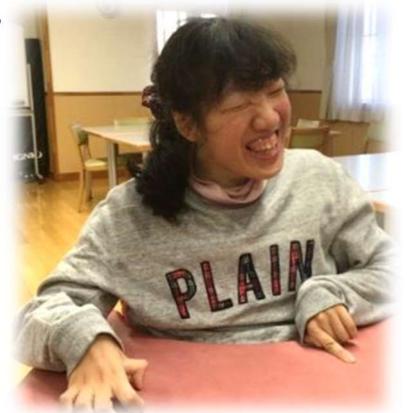


10月22日に宮城県知事選挙並びに衆議院議員総選挙の他、裁判官国民審査が行われました。今回、活動内で期日前投票に行かれた寺嶋薫子さんにお話を伺いました。

薫子さんが初めて投票に行った際は緊張が強く、受付の方になかなか話が伝わらないなどの苦勞がありました。しかし選管の方の優しい対応もあり、2回目以降は緊張することなく投票できたと本人も話していました。選管の方に候補者の名前を読んでもらい、薫子さんは「はい」や「違うよ」と返答するという方法で投票を行いました。薫子さんの「はい」という力強い返答が廊下まで響いていたという話も同行した職員から聞かれました。投票に行った感想を聞くと、「今回の投票では、緊張もなく自信を持って臨むことができた。投票するのが楽しかった、また積極的に行きたい」と話をしていました。

様々な課題がありますが、障がいのある方が投票に行くことは、有権者として一票を投じるだけでなく本人にとっても様々な経験ができる良い機会であると共に、その方の個性を地域や選管の方に知ってもらうチャンスなのではないかと思います。今後も本人や家族と相談しながら、積極的に投票に行ければと思います。

(記：寺島)



編集後記 秋も深まってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は温泉が好きで、お休みの日は秋保などの温泉に入ってリフレッシュしています。この時期は冷えますが、お湯に浸かって体がぽかぽかと温まってくるのが至福の瞬間です。おすすめ温泉があればぜひ教えてください♪

(記：寺島)